

## スポーツ人文・応用社会科学系

氏名 よし しげ み き 紀 教授



### 主な研究テーマ

- ICTを活用した英語教育・日本語教育
- 海外遠征アスリートの英語学習支援ソフトの開発

### 平成29年度の研究内容とその成果

1) 平成28年度に引き続き、タブレット等ICTを活用した外国語（英語・日本語）教育について研究を行ないました。本学国際交流センター2階のLL2教室は、平成29年度タブレットを活用した多目的コミュニケーションルームに改修しましたが、もう一つのLL教室（LL1教室）も、平成30年度末現在のパナソニックCALLシステムを撤去し、学生の持つタブレットを活用しアクティブ・ラーニングが行なえる教室に改修する予定です。

外国語教育は、インターネットと携帯電話の普及により、ICTとモバイルラーニングを統合的に利用する時代に入りました。筆者は、長年LL教室やCALLシステム等を使って指導してきましたが、現在はそれらが統合されオンラインで世界中の人々と学習できる環境にあります。英語教育でもMoodle等LMS（Learning Management System）を利用し授業を管理し、eラーニングとCALLを統合したブレンド型の教育システムが使用されています。

本学では、新入生対象の英語プレイスメ

ントテストを4年前より従前の筆記テストからパソコンを利用したCASECテストに替え、入学前教育に市販のeラーニング教材を利用しています。4年前から学生はタブレット端末が必携となり、実技に限らず英語教育でもその活用が期待されています。体育・スポーツを専攻する本学学生の英語による発信力を育成するために、タブレット端末やスマートフォンなど学生に身近なICTをいかに利用できるか、その利用方法を探り体育大生のための英語プログラムを開発したいと考えます。

平成29年度は、外国語教育におけるICT活用に関する図書を購入し、またICT等の活用に関する研修会等に参加しました。一つは、東京外国語大学留学生日本語教育センター日本語教育・教材開発・実践教育研修教育関係共同利用拠点が開催したワークショップ『ICT時代の日本語学習者はどのような学習ツールを使っているか』で、日本語学習者の学習ツールについて、学ぶ立場と教える立場の両面から考える機会となりました。東京外大の教員が、留学生を対象に学習ツールに関する調査を実施しまし

たが、国内外で日本語学習者が様々な学習ツール（電子辞書、スマートフォンアプリ、ウェブサイト、動画視聴、SNSなど）を利用していることが判りました。スマートフォンアプリについては、約8割が「非常によく使う」「よく使う」と回答し、東京外大の学習者が挙げたアプリ名は延べ約300、90種以上で、海外の英国・セルビアでも、延べ約200、50種以上を使用していました。この調査結果から、日本語学習者におけるアプリ使用の急速な拡大や、アプリの多様化・種類の多さ、学習者が翻訳・調べ物・学習はウェブサイトで行なっている等、わかってきました。英語学習者を対象に学習ツールに関する調査等はまだ実施していませんが、今後英語教育でタブレット端末等ICTを活用していくためには、本学学生に対しまず英語学習でどんなツールを利用しているか調査する必要があります。また大阪で開催された関西教育ITソリューションEXPOや大阪私学教育情報化研究会主催の「教科別のICT活用を考えるe授業勉強会」にも参加しました。EXPOでは関西12自治体の教育委員会が、次期学習指導要領に向けたICT環境整備の課題を挙げていましたが、関西自治体のほとんどで小中校共に、大型提示装置や実物投射機、タブレットにデスクトップ型パソコン、無線LANなどICT環境が驚くほど整備されていることを知りました。また教育機器関連会社の発表では、大学でのスタンディングテーブル等を備えたパーソナル・ラーニング・コミュニティーなどICT環境整備の

実情を知りました。講義を聞くだけの受動的学習から、ICT機器を活用した能動的学習へ。これからの外国語教育にICTは欠かせない物になっていくと思われま

す。この研究の成果については、平成29年度の科学研究費補助金（基盤C）に「ICTを利用した体育大生の英語発信力育成プログラムの開発」というテーマで申請しました。2）バレーボール関連の専門用語等調べるため、国際バレーボール連盟ホームページの競技上のルールや、バレー部顧問より英語で書かれたバレーボール教本を拝借し、アスリートが海外遠征時の試合等で必要になると思われる競技に関する基本的な語彙等ピックアップしています。

### これからの研究の展望

1）本学の英語教育では、すでに非常勤講師（米国人）がタブレット端末を利用して期末試験等を実施しています。タブレット端末を学生への資料配布や反転学習にも活用し、LLやCALL以上に学生が積極的に学習する環境を整備し活用していきたいと考えます。

2）1）と関連し、バレーボールと水泳等海外遠征アスリートのための学習ソフトができれば、アスリートがタブレット端末やスマートフォンで使用できるようなソフトを今後は開発していきたいです。